

「宇宙の真理に生きる」

(昭和四十年 七月発行)

まことに不思議なことに、宇宙の靈魂である人間が完全なものとなれば、宇宙も一層大きくなるということである。人の精神が向上すれば宇宙も栄える。この妙縁を覚れば、個人だけの精神の立替えにとどまらず、人類が一団となつて宇宙の大生命のもとに生活する地球上とすることが、宇宙人類共に繁栄する道であることを気づくであろう。人類のすべてが神の御意みこころそのままに生活するのが天命であり、人間として守るべき生活の道である。この天恩を知る限りは、人群萬物にその徳を施し、宇宙の繁栄を神に祈ることが根本である。日月と地の厚德を授けられて生活する人間の倖せが判れば、人間は正しく清くならざるを得ない。

人は神であり、神の子である。神と我等を切り離すことは出来ない。天と地とを切り離すことも出来ない。天地と萬物を切り離すことも出来ない。総体一体觀の上に一切は向上繁栄するのである。地あってはじめて太陽が明らかとなり、太陽あって地が明らかとなり、天地相互に力を合わせて地上の萬物が構成されている。この故に神の御意みこころそのままに生活することがミココロ天命であり、宇宙の真相を知って萬物に感謝しながら天命に従い、宇宙の真理に生きる生活に徹することが信仰である。